特集　職場暴力は安全衛生の課題

病院職場における労働密度の増大とストレス

―職場アンケート調査からの重要課題―

自治労新潟県本部政治政策部長　榎本朋子

多くの問題を抱えストレスなどが増え長期病体者の原因になっている公務職場

日本の自殺者数はここ十数年、年間三万人を超え続けています。社会・経済状況、職場・労働者を取り巻く環境、家族や家庭の問題など、抱える不安や自殺にいたる要因はさまざまではあると思いますが、とくに政府による構造改革・規制緩和以降、とりわけ労働者・労働環境をめぐる状況は悪化しています。

公務職場においては、平成の合併で多くの市町村が一緒となり、地域性や住民感情、業務内容の違いや仕事のやり方など、多くの問題を抱えながら仕事を進めていくにつれ、ストレス等が知らず知らずのうちに増え、長期病休者の原因の一つになっています。

今回実施したアンケート結果では、「不安」「つらい」が多くなっている

今回実施した職場におけるアンケート結果（『職場安全と心身の健康アンケート』二〇〇九年一〇月集計）では、「何となく不安、これから先やっていく自信がもてなくなっている」「職場に行くのがつらい、特に休み明け（月曜）はつらい」が多くなっています。これは、社会全体を覆う先行きの不透明感や将来への不安、そして何より職場が、やりがいのある楽しい職場でなくなっていることを反映しています。

とりわけ病院では、住民・患者、そして患者の家族などからの精神的なプレッシャーや不平・不満、時には暴言まで受け止めざるを得ない現状があります。また、職場の中での上司や同僚・仲間との関係では、医師と看護師や技師等、病院という特別な職場、上下関係が微妙な圧力や悪影響を与えます。

人間の命を預かるという毎日の重圧感の中で、「むやみに責任を押し付けられた」り、「上司等の意見や判断を一方的に押し付ける」などの一方で、「いやみや無視、威嚇」といった無言の圧力が見え隠れします。

しかし、何といっても、「特に怖い思いやつらい思いをさせられる」のは、同